調査研究報告

富士峯修行関係史料の翻刻と解題

大高　康正

はじめに

富士峯修行とは、中世・近世の時代に富士山表口を管轄していた村山修験の修験者による富士山への峰入り修行である。[1] 村山修験による富士山修行の中でも根本行事とされていたもので、旧暦の七月二十二日に村山を出立し表口から富士山へと入り、八月二日まで山中の諸々の行場で修行をし、八月三日に須山口から駿東郡方面へと下山、山麓の駿東郡・富士郡に含まれる村々で宗教活動を行いながら、八月十六日に村山へと帰山する。山麓の村々の行場に残る納札の状況から、昭和十年代までは継続して行われていた。

富士市立博物館寄託の大宝院秋山家資料には富士峯修行の実態を探る上で大変貴重な記録類が含まれている。大宝院の歴史と大宝院秋山家資料目録、およびその概要は別稿を参照いただきたいが、[2] 未だ実態が解明されたとは言い難い富士山修験道の教義や次第に関する聖教類をはじめとして、近代における民間宗教者の宗教活動の実態解明、まじない習俗に関する研究分野の進展にも寄与が期待される資料群となっている。

本稿では、大宝院秋山家資料所収の富士峯修行関係史料四点（①『諸家認記』・②「冨士峰採燈大護摩次第」・③「〔富士峯修行行程メモ書〕」・④「富士嶺勤行作法次第」）を翻刻および写真にて紹介し、あわせて簡単な解題を付しておきたい。

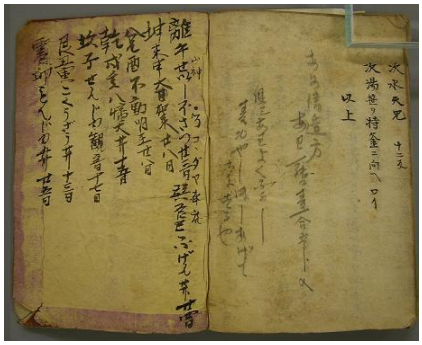
【注】

（1）拙稿「富士峯修行考」（『山岳修験』四三号掲載予定、二〇〇九年）参照。

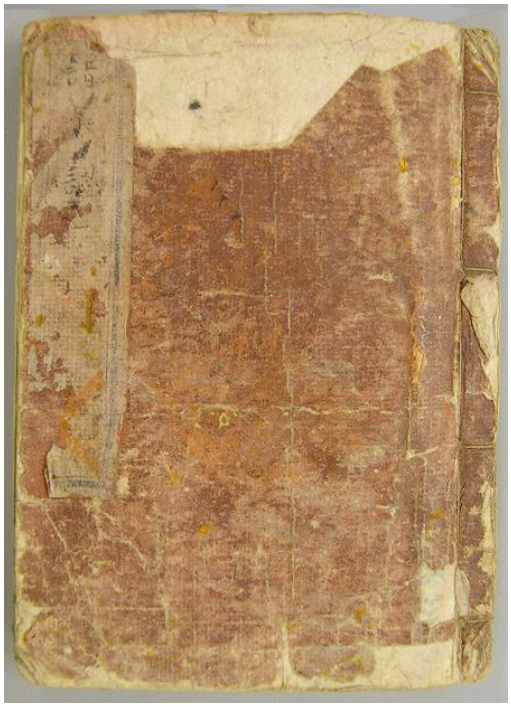
（2）拙稿「富士山の「法印（ほうえん）さん」―富士市立博物館寄託・大宝院秋山家資料―」（『富士山文化研究』九号掲載予定、二〇〇九年）参照。また大宝院秋山家資料の目録については、同論文に掲載のほか富士市立博物館ＨＰでも公開、ダウンロードも可能（調査研究「富士市立博物館寄託資料・大宝院秋山家資料目録」）。

①『諸家認記』（【文書・記録編】八七―一号）

（上・初頁、下・最終頁）



（表紙）



（題箋）
「諸家認記」

※表紙裏に「諸扎認法」等の種々の加持祈祷に関する次第目次を記すが、本文の内容とは関連せず。また本文初めに「明治七年六月・教部省乙第三拾三号」・「明治九年七月六日・甲第拾九号各府縣派内教導取締」・「明治九年六月二十二日・口達書」・「明治十一年二月十三日・甲第四号各府縣派内教導取締」・「本派旧修験帰入僧侶法衣制度」を書写する〔写真参照〕。

（前略）
（朱書「○」印、以下同）
○修験道床堅懺悔式
（中略）
修験床堅作法
（中略）
○本山修験道宗意
（中略）
○送神輿勧請法
（中略）
○神立方角
（中略）
○八方堅（カタメノマモリ）護
（中略）

○修験道理護摩次第

（中略）

○袖ク書

（中略）

小笠原鳴弦蟇目之法

（中略）

修験代々相傳

（中略）

○「祭文」

（中略）

○冨士峯勤行作法

観音経　真読或ハ懺法上巻

南無浅間大菩薩　南無七社大権現
南無高根大棟梁　南無天満威徳天神
南無八幡大菩薩　南無五所大権現
南無五大力菩薩　南無两部大日如来
南無般若十六善神　南無飯綱大明神
南無丹生大明神　南無愛鷹大明神
南無三宝大荒神　南無大悲観世音
南無金沢浅間大菩薩　南無十二所大権現
南無三島大明神　南無山王十善神
南無八大金剛童子　南無神變大菩薩
南無當年属星本命元辰

次三條錫杖　次陀羅尼

次念珠　次加持珠

唵縛（オンバ）曰羅（ザラ）虞（グキャシャ）吔（ハマ）惹（エイウン）跛摩曳吽

次念珠合掌之中頂戴ス

香ニ薫

唵毘（ヒ）盧（ロ）遮（シャナ）那（マ）摩（レイ）耶莎訶

次正念誦

慈救咒百八反　息災護摩咒百八反

唵薩（サル）縛（バ）幡（ハ）婆（バ）娜（ダ）訶（カ）那（ナ）縛（バ）曰（ザ）羅（ラ）野（ヤ）莎訶

次還珠合掌之中ニ入テ

修習念珠法　以此生福田
願我法性土　即成不動尊
我欲抜災無余界　一切有情除苦惱
本来具足薩般若　法界三昧窓現前
天下泰平　國土安穏
諸人快楽　諸且那繁昌
自他息災　念願成就

次金剛拍掌

五大明王還帰本土

次撥遺　弾指印

唵縛（バ）曰（ザ）羅（ラ）謨（モ）尤（キ）左（リ）謨（ボ）句（ク）

次九條錫杖　　次観音経　壱巻
次諸真言　七反宛
大日　アビラウンケン・バサラタトバン
仏眼　ボタ・ロシヤニ・ソワカ
薬師　コロ〳〵センダリマトウギソワカ
弥陀　アミリタ・テイセイカラウン
釈迦　ナウマクサンマンダ・ボタナン・バク
観音　アロリキヤソワカ
千手　バサラ・タラマ・キリク・ソワカ
馬頭　アミリト・ドハバ・ウンハツタ・ソワカ
十一面　ロケイ・ジンバラ・キリク・ソワカ
如意輪　ハラダ・ハンドメイ・ウン
准泜　シヤレイ・ソレイ・ジユンデイ・ソワカ
文殊　アラハシヤナウ
地蔵　カカカビサンマエイソワカ
空レ虚　ナウボ・アギヤシヤ・ギヤバヤ・ヲンアリ
蔵　キヤ・マリボリ・ソワカ
水天　ハロタヤソワカ
日昼ニハ　不動慈救咒火界モ
愛染　ウンダキ・ウンジヤク・ウンシツチ
行者　シヤ・ベンダラヤ・ソワカ
日天　アニチヤソワカ
月天　センダラヤソワカ
大黒天　マカ・ギヤラヤ・ソワカ

宇賀神　ウガヤ・ジヤヤギヤラベイソワカ
弁財天　ソラソバ・テイエイソワカ
四天王　アウン・ランケン・ソワカ
天狗　チラ〳〵ヤソワカ
仝　ケンヒラ〳〵ソワカ
仝　ダイヅラダツタアルマヤ天狗スマ
　ンギソワカ
仝　トンダリヤソワカ
大威徳　シユチリ・キヤラ・ロハンウンケン
荒神　ケンバヤ〳〵ソワカ

次心経　七反　　次初夜慈救咒　百八反
次后夜火界咒　百八反　　次初夜イニ舎利礼　七反
次尊勝陀羅尼　一反　　次光明真言　廿一反
次隨救陀羅尼　廿一反
出座

採燈大護摩読経之次第
先三礼　　鳴梵具
次護身法　如常　　次六根秡
次床堅文　経頭始ム　次願文
次錫杖経　　六根殷
次懺法　　次観音経　壹反

次心経　三反
次聖不動経　壱反　或ハ尊勝陀羅尼
次諸真言　七反ッ、　両部大日
慈救呪　火界呪
次仏眼　ボタロシヤニ
次三部　アサバソワカ
次諸天　ロキヤ〳〵ギャラヤソワカ
一字金輪呪
帰命本覚賛　鳴具
次祈念　畢テ出座
帰命本覚身法身　常住妙法心蓮臺
本來具足三身徳　三十七尊住心城
普門塵数諸三昧　遠離因果法然具
無遍徳海本円満　還我頂礼心諸佛
鳴具祈念畢　出座
床堅文
悪罵及捶打（ヲメギウスイダ）　皆悉當能忍（ニン）
我今成仏身　端坐思実相
師曰順峯ノ時下二右手一上二左手一逆峯時
下二左手一上二右手一半跏座准之跏歩一
尺二寸夏峯時随大歳甲乙両年
上可意得ロイ

一字所成塔婆
一印大日学体
自身五輪座位
ロイ

床堅観文
我即　字本不生　如次腰腹心額頂
腰下　字離言説　金色方形仏心地
臍輪　字無垢染　黒色円形大悲水
心上　字離因業　赤色三角大智火
額下　字等虚空　白色半月大力風
頂上　重々相累無隔別　青色團形大空輪
高下大小本不二　如々一体不雑乱
帝綱瑜迦遍法界　彼此横竪輪円足
心仏衆生無着別
小木文
四大和合身　骨肉及手足
如薪盡火滅　皆共入仏地
観法　ロイ
挙（ゲレ）手ヲ動（スレ）足ヲ　皆ナ是レ密印
風聲水音　皆ナ是レ真言
山河大地　皆是法身
萬木苔石　皆是本尊

閼伽(アカ)文

以テ二字ノ浄水ヲ一洗-二浴ス煩悩身ヲ一
五智ノ德顕現ス心諸仏円満ス
以テ二本清浄ノ水ヲ一洗-二浴ス無垢ノ身ヲ一
不レ捨二本誓ヲ一故ニ證誠我承事

大峯深山秘文

不断煩悩者　入於遍智院
不論迷悟者　超菩薩十知
ロイ

冨士嶺行所納札書様

八大金剛童子三十講何坊代　何院
不動明王　年号　月日　何院
神變大菩薩大先達何坊　何院

発心
門小
札形

秘哥アリ新客小傳受　三十講山伏ハ入山伏也
横根
小　浅間大菩薩　七月下旬
中宮　秘水加持有
中　八幡大菩薩　仝
中宮上小愛鷹ト云
小　愛鷹大明神　仝
滝本岩屋　千反慈救咒作法有

小　不動明王　同
室　秘密重々ロイ有
大　伍所大権現　同
胎内五位修行有
登り立
小　浅間大菩薩　八月上旬
泉水秘密行法有之
小　飯綱大明神　同
須山中宮
小　浅間大菩薩　同
須山室
中　丹生大明神　同
水呑
小　浅間大菩薩　同
北畠
中　五鬼善鬼神　同
胎内
中　子育不動明王　同
子ノ神
小　三宝大荒神　同
ハ子木　作法有
小　不動明王　同
須山
中　大悲観世音　同

ノゾキ
小 不動明王 同
マク岩
小 浅間大菩薩 同
金沢 作法有之
中 浅間大菩薩 同
今里滝
小 神變大菩薩 同
今里
小 釋迦如来 同
桂ヶ島 作法有
中 大悲観世音 同
千福
中 十二所大権現 同
同所竜宮渕 辨財天女
小 不動明王 同
龍樹大士
大畑 秘密作法有
中 三所大権現 同
三島
大 三島大明神 同
沼津
大 山王二十一社 同

右何レモ脇書同断
大札曲尺ニテ壱尺八寸三枚
中札壱尺二寸七枚・小札九寸十四枚
碑傳木八尺壱本
何レモ真木番ニテ拵ヘ札板
先達番ヘ遺ス先達書認ム
峯中ヘハ入山伏持参ス
碑傳木 一本ニ如是有之

上
七社大権現 八大金剛童子
冨士峯浅間大菩薩
高根大棟梁 神變大菩薩

下
三十講何坊代 何院
年号月日 何院 実名度数等書加
大先達何々坊 何院

アシタカノヒデ 八大金剛童子
胎蔵愛鷹大明神
神變大菩薩
脇書同断

金剛杖文 床ツメノ木ニモ
金剛冨士峯浅間大菩薩

七社大権現
高根大棟梁
五所大権現
胎藏愛鷹大明神
八大金剛童子
神變大菩薩
五大力菩薩
年号月日
出世名　可書記也
立法螺作法ロイ
○例時通用
（中略）
○念仏六印大事
（中略）
○食事説
（中略）
○大般若理趣分之大事
（中略）
○法螺之文
（中略）
○火生三昧法
（中略）
○摩除之法
（中略）

○光明真言七種秘印
（中略）
○大黒一時千座
（中略）
○採燈護摩大事
先檀前普礼　次着座普礼
次塗香
次洒水
覽鑁唵阿密梨帝ウンハツタ
次護身法
次地撅印　内縛風地大竪合
ヲンキリ〳〵バザラバチリホラマンタウンハツタ
次方結印
ヲン・サラ・サラバザラハラキヤラ
次送車輅
ヲン・トロトロウン
次請車輅印
ヲンギヤリサヤソワカ
次天結印
ヲン・ビソホラ・タラキ・シヤ・バザラ・ハンジヤラ・ウンハツタ
次火天召請印
ヲン・アギヤ・ナウ・エイ・ソワカ
次四明印

ヂヤク・ウン・バン・コク

次枯木文（コキノ）

一仏成道　観見法界

草木國土　悉皆成仏

次不動根本　火界

次枯木取　結目ヲ打テ剪ル

次洒水　三度前ニ全シ

次扇火

ヲン・ホク・ヂン・バラ・ウン

次房華

一華取リ八葉ノ中ニ入レ火天ノ少咒

次五大惣印

中央大聖不動明王ノ大地ニ

東方降三世ノ積ミレ木ヲ　南方軍荼利ノ火ヲ放チ

西方大威德ノ扇キレ風ヲ　北方金剛夜叉ノ水ヲ洒テ消ニ滅ス之ヲ一

次瀬口（ソコウ）　打ツ許リ

ヲンハラダバンテイ

次加持珠

ヲン・バザラ・ダキヤ・ヤ・ヂヤハ・サンマ・エイ・ウン

次念数　香薫合掌（クン）

ヲンヒロ・シヤナ・マンイ・ソワカ

次正念珠

慈救咒　百八反

息災護摩咒　百八反

ヲン・サルバ・ハバ・タカナ・バザラヤ・ソワカ

次還珠　合掌ノ中ニ入ル

修習念珠法　以此生福田

願我法性土　即成不動尊

我欲抜災（バツサイ）　無余界

一切有情　除苦悩

本来具足　薩（サ）般若

法界三昧　窓現前

天下泰平　國土安全

諸人快楽　諸旦那繁昌

自佗息災　念願成辨

次金合拍掌（コン）

五大明王　還帰本土

次撥遣

ヲン・バザラ・ホキ・シヤ・ボク

右者一山傳来之秘法也堅ク他見ヲ不レ許ル一山之衆徒七峯以上傳受之先格如件

○「富士峯採燈護摩祭文」

謹敬勧請奉招請冨士浅間大神始日本
国中之大小神祇別而御山守護神高八
山太郎坊大権現大天狗小天狗雲切大
聖不動明王冨士峯八大金剛童子開山
神變大菩薩当所鎮座氏神部類眷属等
十二大天降臨祭場之砌於御神前夫冨
士峯採燈大護摩供者御大唐震旦漢明
帝世敕法流布我朝日本欽明天皇代仏
教始テ渡給ショリ以降武文天皇御代蒙勅号大
峯禅上ニ登リ竜樹菩薩有出現言帝皇至マテ下
卒士人民難病流行可有之汝此法修テ可
禦有傳法夫此方一山傳来秘法也依之
祈願大意一天泰平風雨順時五穀成就
万民泰除病延命何郡何村中安全祈者
也　軌記曰　若人箭礼拝供養セク富貴長
壽也不信敬運命不久有之　然者仰大
聖誠言憑諸天之誓願柚信心丹精備養
敬礼典　夫攘灾招福計止悪修善誠不
加所求満足　勒ツトメヘ依此當峯秘法　仰所本
尊秘願皆以甚深也　天等擁護是亦不
浅　仰速疾不思議効験者当峯之行法
威力者　然則　威神願海不謬心中求
願一々成就也依丹心抽條如件

冨士山表口村山
時于年号今月今日　何院敬白

○三密観秘法
（中略）
○九字之文
（中略）
○大法火生三昧
（中略）
○垢離之文
（中略）
法満院愛染御湯火生大事
（中略）
以上

※裏表紙内側に諸尊の縁日等をメモ書する〔写真参照〕。

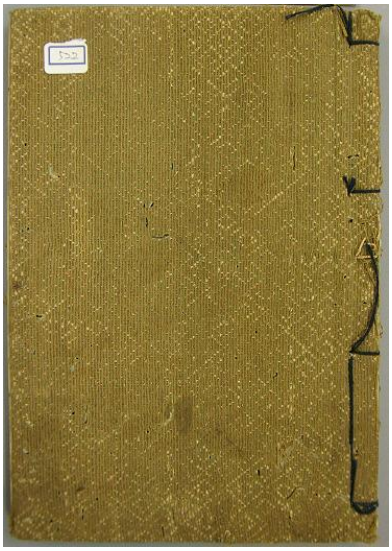
②『富士峰採燈大護摩次第』（〔文書・記録編〕七四号）

【解題】

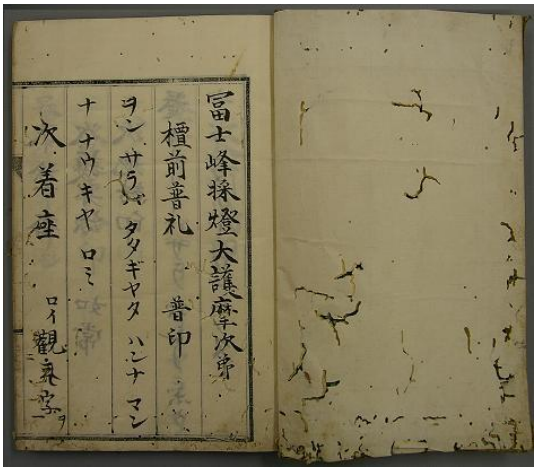
四つ目綴じの冊子で、題箋部分に読み取りにくいが「諸家認記」と記されていることが確認できる。この史料は修験道本山派の勤行次第や作法等の記録を中心にまとめられた書写本で、タイトルは編纂時に付けられたものであろう。

富士山修験道の実態を解明する上でも重要な事項が多く含まれているが、今回はその中でも富士峯修行に関わってくる「富士峯勤行作法」・「採燈大護摩読経之次第」・「富士嶺行所納札書様」・「採燈護摩大事」・「富士峯採燈護摩祭文」といった部分を抜粋して翻刻する。「富士峯勤行作法」は富士峯修行における勤行での読経・真言など法会の次第を、「採燈大護摩読経之次第」は採燈大護摩供における読経の次第を、「富士嶺行所納札書様」は富士峯修行の各行場に納める納札の書き方を、「採燈護摩大事」は採燈大護摩供における勤行の次第を、「富士峯採燈護摩祭文」は採燈大護摩供における祭文の雛型を記している。

冒頭に明治十一年二月十三日付の天台寺門宗山科祐玉による「各府縣派内教導取締」が写されており、大宝院秋山寿芳によってまとめられた記録である可能性が考えられる。大宝院秋山家資料には、この『諸家認記』に記されている事項を個別に抜粋してまとめられている記録類が多々見られている。



（表紙）



（初頁）

冨士峰採燈大護摩次第

檀前普礼　普印

ヲンサラバタタギヤタハンナマンナナウキヤロミ

次着座　観ロイニ 字ヲ一

次塗香

次護身法　如常

次地結印

唵キリ〳〵バザラバジリボウヂマンダ〳〵ウンハツタ

次金剛墻印

唵サラ〳〵バザラハラキヤラウンハツタ

次送車輅印

唵トロ〳〵ウン

次請車輅印

唵ギヤリサマソワカ

次金剛綱印

唵ビソホラタラキシヤバザラハンジヤラウンハツタ

次火天召請印

唵アギヤナエイエイゲイギソワカ

次四明印　採燈ロイ轉レ火

ジヤクウンバンコク

次枯木文

一仏成道　観見法界

草木國土　悉皆成仏

次不動根本印　三反又ハ七反

慈救咒

次小木ヲ取柴打ニテ結目ヲ

切火中ニ投ス

次灑水　三度　火ヲ加持ス

　ロイ

唵アミリテイウンハツタ

次扇火　三度

唵ボヂハラウン

次房華　投ニ火中ニ一

唵アギヤナエイソワカ

次五大明王惣印

中央大聖不動明王之大地ニ

東方降三世ノ積ミレ木ヲ南方軍荼利ノ

放チレ火ヲ西方大威德ノ扇キレ風ヲ北方金

剛夜叉ノ灑テレ水ヲ消滅ス

次瀬口

唵ハラダバザラダ

次加持珠

唵バザラダキヤジヤハサンマエイウン

次念珠　合掌中ニ入頂キ薫レ香ニ

唵ビロシヤナマンイソワカ

次正念誦

慈救咒　百八反

息災護摩咒　百八反

唵サルバハバタカナバザラヤソワカ

次還珠

修習念珠法　以此生福田
シュシ子ンシュホウ　イシショウフクデン

願我法性土　即成不動尊
ガンガホウショウド　ソクジョウフドウソン

我欲抜済無余界
ガヨクバッサイムヨウカイ

一切有情除苦悩
イサイウジョウジョウクウノウ

本来具足薩般若
ホンライグソクサツハンニャ

法界三昧窓現前
ホウカイサンミソクゲンゼン

天下泰平國土安全風雨順時

五穀成就諸且那繁昌自他息

災念願成辨

次金剛合掌

五大明王還帰本土

次撥遣　弾指印

唵バザラモキシヤボク

次回向

退座

右者一山傳来之秘法也堅不許他見雖為一山衆徒七峯以上傳授之先格如件

冨士山興法寺住

参仕修学者

法眼榮壽（花押）

授与

大寳院壽芳

柴燈場

幡　五色紙

四門ニ

青　赤　白　黒

東　南　西　北

冨士峯勤行之作法

観音経　真読或懺法上巻

南無浅間大菩薩

南無七社大権現

南無高根大棟梁

南無天満威德天神

南無八幡大菩薩
南無五所大権現
南無五大力菩薩
南無両部大日如来
南無般若十六善神
南無飯綱大権現　一本ニ大明神トアリ
南無丹生大明神
南無愛鷹大明神
南無三寶大荒神
南無大悲観世音
南無金澤浅間大菩薩
南無十二所大権現
南無三島大明神
南無山王十善神
南無八大金剛童子
南無神變大菩薩
南無當年属星本命元辰

次三條錫杖

次陀羅尼

次念珠

加持珠

唵バザラクキヤジヤハサンマエイウン

次念珠合掌之中ニ入頂戴ス

香ニ薫

唵ヒロシヤナマレイソワカ

次正念誦

慈救咒　百八反

息災護摩咒　百八反

唵サルバハバタカナバザラヤソソワカ

次還珠合掌之中ニ入テ

修習念珠法　以此生福田
願我法性土　即成不動尊
我欲抜災無余界
一切有情除苦悩
本来具足薩般若
法界三昧窓現前
天下泰平　國土安穏
諸人快楽　諸且那繁昌
自他息災　念願成就

次金剛拍掌

五大明王還帰本土

次撥遣　弾指印

唵バサラモキシヤボク

次九條錫杖

次観音経　壱巻

次諸真言　七反宛

大日　𑖀アビラウンケン○バザラダトバン
仏眼　𑖀ボタロシヤニソワカ
薬師　𑖀コロ〳〵センダリマトウギソワカ
弥陀　𑖀アミリタテイセイカラウン
釈迦　ナウマクサンマンダボタナンバク
観音　𑖀アロリキヤソワカ
千手　𑖀バザラタラマキリクソワカ
馬頭　𑖀アミリトドハバウンハツタソワカ
十一面　𑖀ロケイジンバラキリクソワカ
如意輪　𑖀ハラダハンドメイウン
准泥　𑖀シヤレイソレイジユンデイソワカ
文殊　𑖀アラハシヤナウ
地蔵　𑖀カカカビサンマエイソワカ
虚空蔵　ナウボアギヤシヤギヤバヤヲンアリキヤマリボリソワカ
水天　𑖀バロタヤソワカ
日昼ニハ　不動慈救又カ火界咒
愛染　𑖀ウンダキウンジヤクウンシツチ
行者　𑖀シヤベンダラヤソワカ
日天　𑖀アニチヤソワカ
月天　𑖀センダラヤソワカ
大黒天　𑖀マカギヤラヤソワカ
宇賀神　𑖀ウガヤジヤヤギヤラベイソワカ
弁財天　𑖀ソラソバテイエイソワカ
四天王　𑖀アウンランケンソワカ
天狗　𑖀チラ〳〵ヤソワカ
仝　𑖀ケンビラ〳〵ソワカ
仝　𑖀ダイヅラダツタアルマヤ天狗スマンギソワカ
仝　𑖀トンダリヤソワカ
大威徳　𑖀シユチリキヤラロハンウンケンソワカ
荒神　𑖀ケンバヤ〳〵ソワカ

次心経　七巻

次慈救咒　初夜　百八反
火界咒　后夜　百八反
次舎利礼　七反
次尊勝陀羅尼　壱反
次光明真言　廿一反
次隨救陀羅尼　廿一反
出座

床堅文

悪罵及捶打（ヲメギツスイダ）　皆悉當能忍（カイシツトウノウニン）

我今成仏身（ガコンジョウブツシン） 端坐思実相（タンザ シジツソウ）

師曰　順峯ノ時下二右手一上二左手一逆峰ノ時下二左手一上二右手一

半跏座准之跏渉壱尺二寸

夏峰ノ時隨大歳甲乙兩手

上下可得意

ロイ

一字所成塔

一印大日学

自身五輪座

ロイ

床堅観文

我即 [illegible]

如次腰腹心額頂

腰下 [illegible] 字本不在

金色方形仏心地

臍輪 [illegible] 字离言説

黒色円形大悲水

心上 [illegible] 字無垢染

赤色三角大智火

額下 [illegible] 字离因業

白色半月大力風

頂上 [illegible] 字等虚空

青色團形大空輪

重々相累無隔別

如々一体不雑乱

高下大小本不二

彼此横竪輪圓足

帝網瑜迦遍法界

心仏衆生無着別

小木文

四大和合身　骨肉及手足

如薪盡火滅　皆共入仏地

観法　ロイ

挙手ヲ動スレ足ヲ　皆ナ是レ密印

風声水音　皆是真言

山河大地　皆ナ是レ法身

萬木苔石　皆ナ是レ本尊

閼伽文

以テ二 [illegible] 字ノ浄水ヲ一　洗二浴ス煩悩身ヲ一

五智ノ德顕現ス　心諸仏円満ス

以テ二本清浄ノ水ヲ一　洗二浴ス無垢ノ身ヲ一

不レ捨二本誓ヲ一故ニ　證誠我承事

大峰深山秘文

不断煩悩者　入於遍智院
不論迷悟者　超菩薩十知
採燈護摩読經之次第
先三礼　鳴梵具
次護身法　如　常
次床堅文　経頭始ム
次願文　先達誦之
次錫杖経
次懺法　六根段
次観音経　壱　巻
次心経　三　巻
次聖不動経　壱　巻
或尊勝陀羅尼
次諸真言　七反宛
両部大日
慈救咒
火界咒
佛　眼
三　部　アサバソワカ
諸　天　ロキヤ〳〵ギヤラヤソワカ
一字金輪　2
本覚讃
帰命本覚身法身
常住妙法心蓮臺

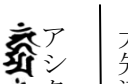
本来具足三身徳
三十七尊住心城
普門塵数諸三昧
遠離因果法然具
無遍徳海本円満
還我頂礼心諸仏
鳴具　祈念畢　出場
法螺之作法　ロイ
三昧法螺聲　一乗妙法音
経耳滅煩悩　聽受無法期
両法両當座　天人大衆中
三音　三音　三音半　都而十音
是ヲ表十界也　其余ロイアリ

冨士峰行所納札書方
発心門小札　三十講トハ入山伏ノ事
八大金剛童子　三十講何坊代　何院
不動明王　年　号　七月下旬　何院　何院
神變大菩薩　大先達何坊　何院
秘哥アリ新客小傳受
浅間大菩薩　横根小札
八幡大菩薩　中宮中札
秘水加持アリ

愛鷹大明神　小アシタカ小札
俗ニタカ山ト云　滝本岩屋小
不動明王　千反慈救咒作法有
五所大権現　室大札
秘密重々ロイアリ胎内五位修行有
浅間大菩薩　登り立小札
飯綱大明神　泉水小札
秘密行法アリ
浅間大菩薩　須山中宮小札
丹生大明神　仝室中札
浅間大菩薩　水呑小札
五鬼善鬼神　北畑中札
子育不動明王　印野胎内中札
三寶大荒神　子ノ神小札
不動明王　ハ子木小札
作法有
大悲観世音　須山中札
不動明王　ノソキ小札
作法アリ
浅間大菩薩　金沢中札
作法有
神變大菩薩　今里滝小札
大悲観世音　桂ヶ島中札

作法有
十二所権現　千福中札
弁才天女
不動明王　仝竜宮渕小札
竜樹大士
三所大権現　大畑中札
秘密作法有之
三島大明神　三島大札
山王二十一社　沼津大札
大札曲尺ニテ一尺ニ寸（マヽ）　参枚
中札仝壱尺弐寸　七枚
小札仝九寸　拾四枚
碑傳木八尺　壱本
何モ真木番ニテ拵ヘ札板先
達番ヘ遺ス先達書認メ峰
中ヘ持ス
碑傳木
村山社内
祖師堂ノ前ニ立
七社大権現　八大金剛童子
冨士峰浅間大菩薩
高棟大棟梁　神變大菩薩

三十講何坊代　何院
年号月日　何院　実名度数等書加ル
大先達何坊実名　何院

アシタカノヒデ
 　胎蔵愛鷹大明神
脇書小書等前同断

金剛杖及床ツメノ木ニモ
金剛冨士峰浅間大菩薩
七社大権現

高根大棟梁
五所大権現
胎蔵愛鷹大明神
八大金剛童子
神變大菩薩
五大力菩薩
年号月日　出世名可書
大峰八大金剛童子
葛城七大和光童子
金剛藏王胎藏権現
吉野藏王大権現
子守勝手愛染明王

稲村岳三社大権現
泥川八大竜王権現
天之川辨財大天女
マイラキン　ランテイ
奥院孔雀明王
熊野十二社高野山
南無大師遍照金剛

天狗陀羅尼
ナウローシテイ2○　デロ〳〵マカデロ2○　ヨコデロ2○　デテロテロ○　ソイソ○　ソイ2○　テイロ○　ダラニ○　サマニマ〳〵ニ2○　マイダラバ○　ハチロー○　シチイ○　ソハ○　チイ○　ヨコデイ○　デイロ○　ソデ2○　ソイ2○　デソイ○　テイロ○　タラマ○　ハンタラマニ○　ソワカ

山神陀羅尼
ヲ山神ヤ○　大シンチンヤ○　ヲヲシンゴンヤロロ○　シエヤ○　シエリ○　ハラリ○　ハシンダリ○　ハラリ○　ソワカ

仝咒
ココダヤ○　ソワカ

朝夕暮　喰道作法
身自仏師供粮一体自身三上三上
　ト仝行受玉フ事三度

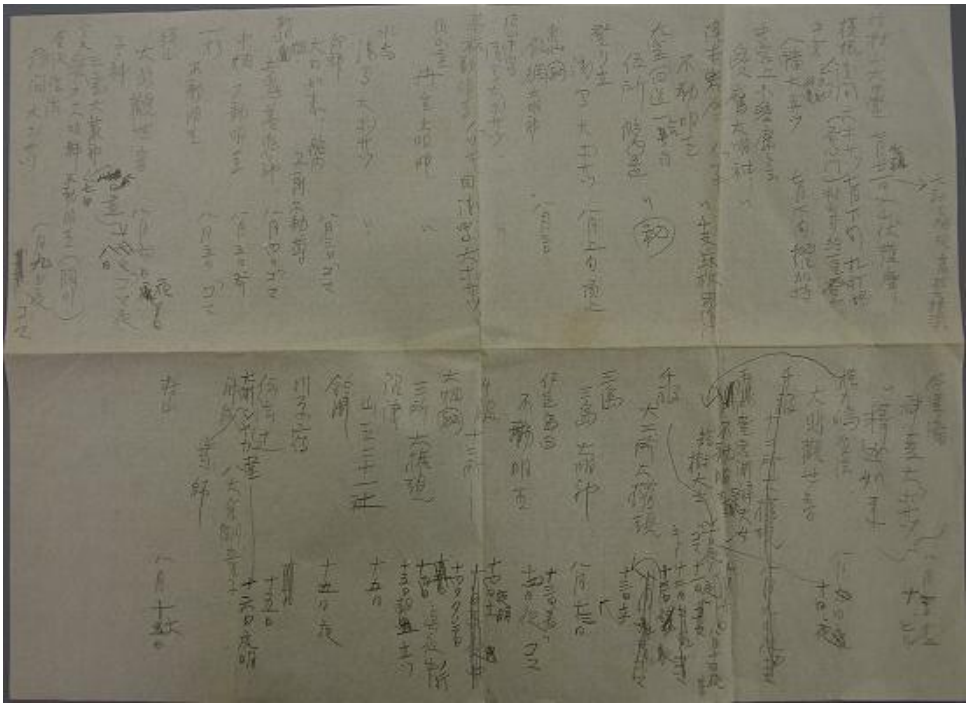
（裏表紙奥書）
　山俥來作法
　　私記他見無用

【解題】

四つ目綴じの冊子で、「冨士峰採燈大護摩次第」・「冨士峰勤行之作法」・「冨士峰行所納札書方」といった事項によって構成されている。「冨士峰採燈大護摩次第」は富士峯修行における採燈大護摩供の次第を、「冨士峰勤行之作法」は富士峯修行における勤行での読経・真言など法会の次第を、「冨士峰行所納札書方」は富士峯修行の各行場に納める納札の書き方を記す。

「冨士峰採燈大護摩次第」は、①『諸家認記』の「採燈護摩大事」と、「冨士峰勤行之作法」は「冨士峯勤行作法」と、「冨士峰行所納札書方」は「冨士嶺行所納札書様」とそれぞれ対応する事項であるが、一部記述に相違がみられることから、複数の写本が存在していた可能性が考えられる。

浄蓮院北畠栄寿から大宝院秋山寿芳へ富士峯修行の次第を伝授したものとあり、史料に年記はないが栄寿と寿芳の活動時期から考えて明治時代初期頃のものと思われる。



③〔富士峯修行行程メモ書〕（〔文書・記録編〕一二二号）

七社大権現・高根大棟梁

七社
七月廿一日入山伏護摩

七月下旬札打場

村山ヨリ約一里登

於村山大日堂

横根　浅間大ボサツ
八大（発心門）
不動
神変

中宮
八幡大ボサツ

七月下旬秘水加持

中宮上小愛鷹卜云
愛鷹大明神

〃

滝本岩屋　ノゾキ
不動明王

〃　千反慈救咒作法

合
大室（旧道一号目
伍所、胎内五位

〃㊙

登り立
浅間大ボサツ

八月上旬頂上

泉水　㊙
飯綱大明神

八月三日

須山中宮
浅間大ボサツ

〃

幕岩
不動明王　ノゾキ

同浅間大ボサツ

須山室
丹生大明神

〃

水呑
浅間大ボサツ

〃

印野

八月三日ゴマ

大日如来　胎内
子育不動尊

畑
新北畑

八月四日ゴマ

五鬼善鬼神

八月五日発

中畑　不動明王

八月五日ゴマ

一杉
不動明王

夜着
須山

八月六日夜

大悲観世音

六日晝　七日ゴマ夜
七日　八日

子ノ神

三宝大荒神

ハネ木
愛鷹大明神　不動明王（泥川）

八月九日夜

金沢作法
浅間大ボサツ

ゴヤ木　ゴマ

今里ノ滝
神変大ボサツ

八月九日晝

〃

十　ヒル

釈迦如来　八月九日夜
桂ヵ嶋作法　十日夜
大非観世音
千福十二所大権現　八月九日夜ゴマ
三島　竜宮川辨財天女
南所　不動明王　八月十日
龍樹大士
十日夜　八月十日夜着
ゴマ　十一日夜　ゴマ
キトー　十二日　三ノ宮ゴマ
十三日　夜
千服
（十カ）
大二所　大権現　八月九日ゴマ
十三日立
三島
三島大明神　八月十三日
伊豆島田　十三日着
不動明王　十四日夜　ゴマ
千福　十四日夜明立
十二所ーー　十日真夜中
大畑㊙　十四日夕着
三所大権現　十五日
十四日真夜中ノ行
沼津　十五日朝出立ツ
十五日

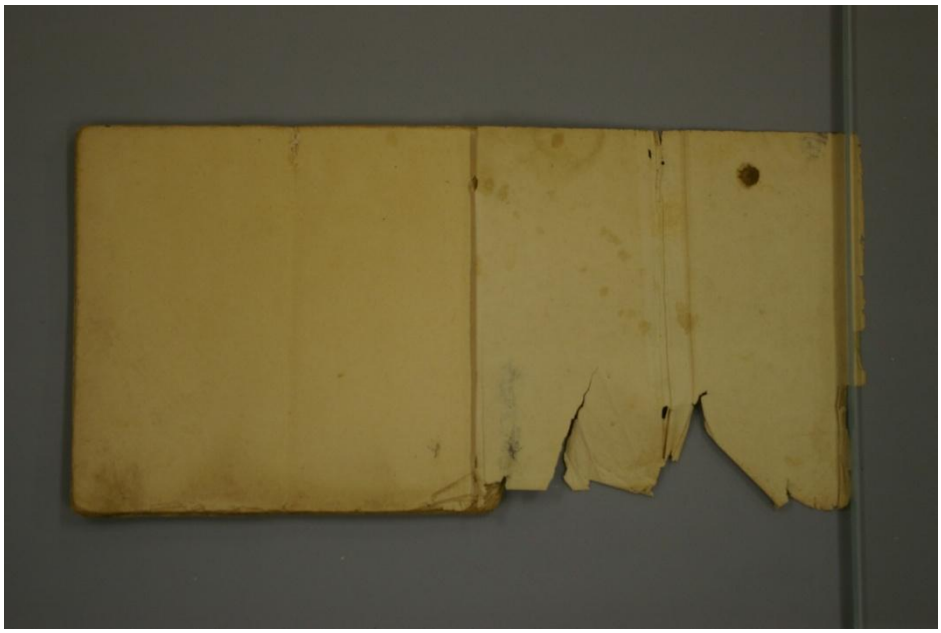
山王二十一社　十五日夜
鈴川　十三日
川原宿　十五日
伝法辻　十六日夜明
大淵シャカ堂
神成　八大金剛童子
薬師　六
村山　八月十五日

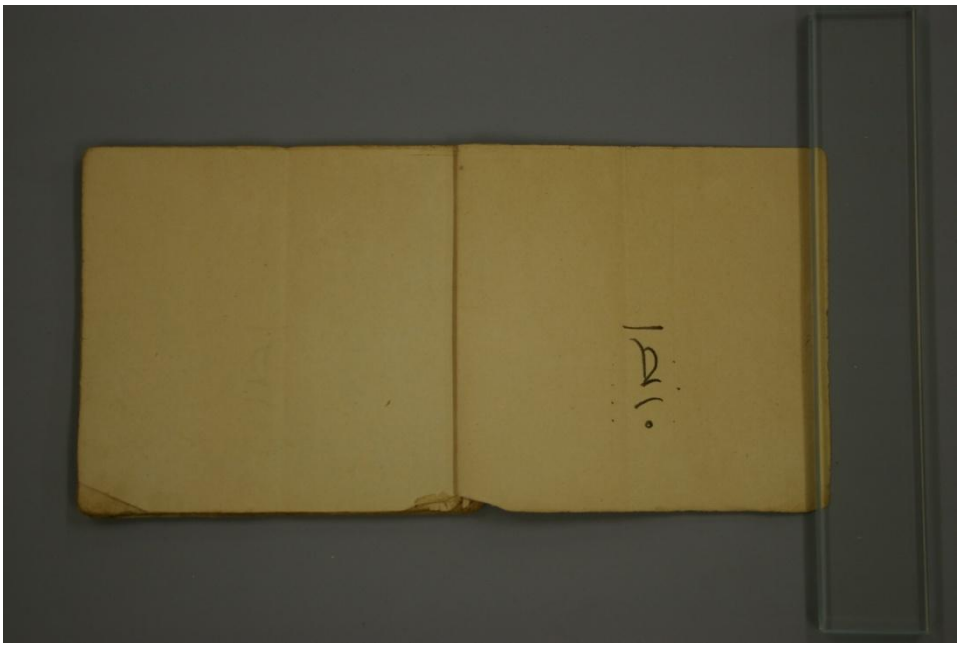
【解題】

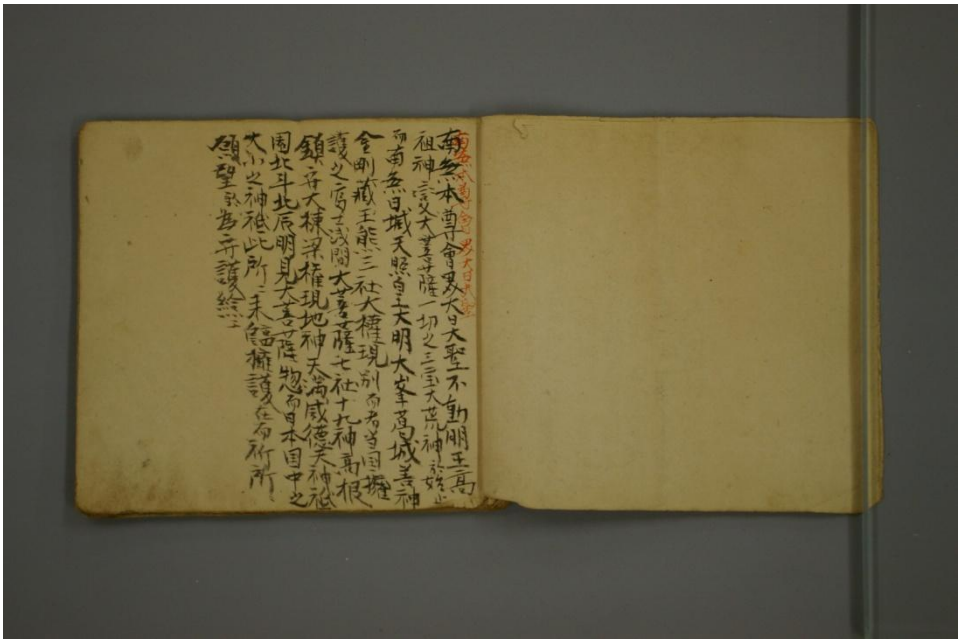
富士峯修行の具体的な行程について、断片的にでも日程を絡めた記述をするものは、近世の地誌類や近代の聞き取り調査の記録を除いては、この史料しか確認できていない。

史料に年記はないが、この史料と一括保存されていた「〔村山浅間神社立木調〕」・「英国公使「オールコック」氏等富士登山宿坊旧跡地(指導標)」等のメモ書（【文書・記録編】一二一―一・二・三、一二三、一二四―一号）が明治四十一年（一九〇八）・大正六年（一九一七）・大正十一年（一九二二）のものであることから、おそらく大正時代に大宝院秋山茂作（二代目寿芳）によって富士峯修行の行程をメモ書したものと考えられる。

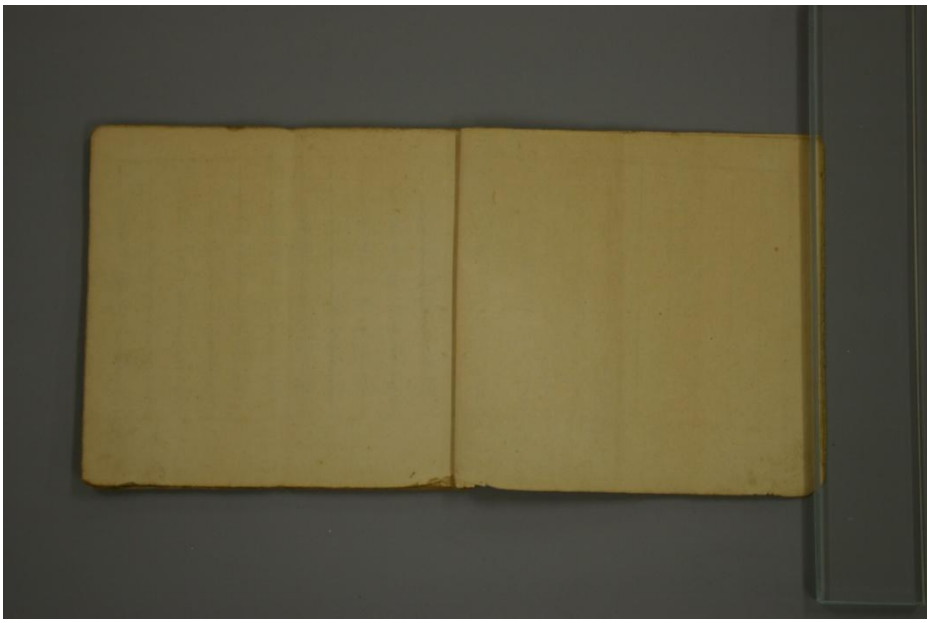
④『富士嶺勤行作法次第』（【文書・記録編】二六四―一号）

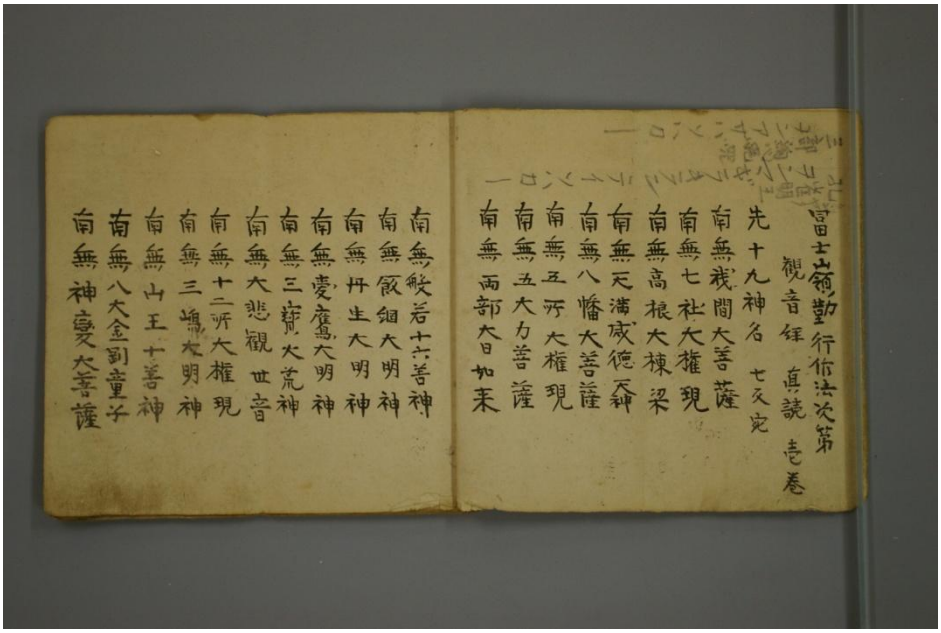






南無本尊會界大日大聖不動明王高
祖神言又大菩薩一切之三寶大荒神於始止
而南無日城天照皇大明大峯高城善神
金剛藏王熊三社大權現別而者当国擁
護之寄土浅間大菩薩七社十九神高根
鎮守大棟梁權現地神天満威德天神祇
周北斗北辰明見大菩薩惣而日本国中之
大小之神祇此所ニ来臨擁護在而祈所
願望於為守護給ニ





富士嶺勤行作法次第

觀音経 真読 壱巻

先十九神名 七反宛

南無栽間大菩薩

南無七社大権現

南無高根大棟梁

南無天満威徳天神

南無八幡大菩薩

南無五所大権現

南無五大力菩薩

南無両部大日如来

南無般若十六菩神

南無飯綱大明神

南無丹生大明神

南無愛鷹大明神

南無三寶大荒神

南無大悲観世音

南無十二所大権現

南無三嶋大明神

南無山王十善神

南無八大金剛童子

南無神變大菩薩

南無當年屬星本命
元辰
次三條錫杖
次陀羅尼
次加持珠
唵縛日羅麌呬惹跛三摩曳吽
念珠合掌中入頂戴　香焚
唵毘盧遮那摩吟莎訶
次正念救
慈救咒　百八返
息災護摩咒　百八返

ナアマアサアア
マンダアバアア
サアラアバアアサアアンダアマカローシヤ

ナソハタヤシン
ンタアラア
タカンマン
唵薩縛播波娑娜訶那縛日羅
耶莎訶
次還珠合掌之中入
修習念珠法　以此生福田
願我法性土　即成不動尊
我欲抜究無餘界
一切有情除苦悩
本來具足薩般若
法界三昧安現前
天下泰平国土安穏諸人快楽
諸旦那繁昌
自他息災　念願成辨

次金剛拍掌　次五大明王還帰
次撥遣弾指印
唵縛日羅謨乞左謨句
次九條錫杖
次觀音経　壱巻
次諸真言　七反宛
大日　唵アビラウンケンバザラダトバン
佛眼　唵ボダロシヤニソワカ
薬師　唵コロコロセンダリマトウギソワカ
弥陀　唵アミリタテイゼイカラウン
釈迦　ナウマクサマンダボダナンバク

観音　唵アロリキヤソワカ
千手　唵バザラタラマキリクソワカ
馬頭　唵アミリトドハンバヤハッタ
十一　唵ロケイジンバラキリクソワカ
如意　唵ハラダハンドメイウン
准胝　唵シヤレイソレイジュンデイソワカ
文殊　唵アラハシヤナウ
地蔵　唵カカカビサンマエイソワカ
虚空　ナウボウアキヤシヤキヤヤバヤ
オンアリキヤマリボリソワカ
水天　唵バラメヤソワカ

慈救咒　火界咒

喩ウンダキ。ウン　ヂヤク。ウン　シツチ
喩シヤヘン。ダラヤ。ソワカ
日天 喩アニチヤ　ソワカ
月天 喩セン。ダラヤ。ソワカ
太金 喩マカキヤ。ラヤソワカ
宇宙 喩ウカヤ。ヂヤヤ。ギヤラ。ヲイソワカ
無天 喩ソラ　ソハ。テイ　エイ。ソワカ
四天 喩アウン。ラン　ケン。ソワカ
天和 喩チラ　チラ　ヤソワカ
喩ケンヒラ　ケンヒラ　ソワカ

喩ダイ。ヅラ。ダツタ。アルマヤ。天和
スンマンキ　ソワカ
喩トンダリヤソワカ
大歌 喩シユチリ。キヤラロハ。ウンケン
一五神 喩ケンハヤ。ケンベヤ　ソワカ
次心経　七巻
次慈救咒　百八遍
次火界咒　百八返
次舎利禮　七反
次尊勝陀羅尼　壱反
次光明真言　廿一反

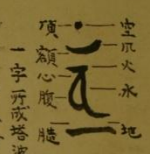
次隨求陀羅尼　廿一反
出座
採燈大護摩読経之次第
先三禮
次護身法
次床堅文
次願文
次錫杖経
次懺法　六根段

次観音経　壹巻
次心経　三巻
次聖不動　壱巻
次諸真言　七反宛
次西部大日
次慈救咒
火界咒
佛眼咒
三部咒　オン　アサハ　ソワカ
諸天咒　ヲン　ロキヤ　ヒキヤ　ガラヤ
本覚賛　碑　以上

帰命本覚　身法身
常住妙法　心蓮臺
本來具足　三身德
三十七尊　住心城
普門塵數　諸三昧
遠離因果　法然具
無邊德海　本円滿
還我頂禮　心諸佛
次床堅文
悪罵及捶打　皆悉当罷忍
我今成佛身　瑞座思実相

我則[梵字]　[梵字]　[梵字]　[梵字]
如次腰腹心額頂
腰下[梵字]字本不生
金色方形佛心地
臍輪[梵字]字離言説
黒色圓形大悲水
心上[梵字]字無垢染

師曰頂峯時下石手上左手
逆峯時下左手上右手
羊跏座準之跏淡一尺
二寸可得意ィ



一字所成塔婆一印大日覚體
自身五輪座位

赤色三角大智火
額下[梵字]字離因業
白色羊月大力風
頂上[梵字]字等虚空
青色圓形大空輪
重重相累無隔別
如如一體不雜乱

高下大小本不二
彼此横堅輪円足
帝網瑜伽遍法界
心佛衆生無差別

次少木文
四大和合身　骨肉及手足
如薪尽火滅　皆共入佛地

觀法 ロイ
擧手動足　皆是密印

爪聲水音　皆是真言
山河大地　皆是法身
萬木大石　皆是本尊

次關伽文
以鎬字渾水　洗洛煩悩身
五智徳顕現　心諸佛圓満
以本清渾水　洗洛無垢身
不捨本誓故　證誠我美事

大峯濱山之祓文
不斷煩悩者　入於遍智院
不論迷悟者　超菩薩十地

富山峯行所　紙檄筆書様イ
蒼心門少化
八大金剛童子　三十謁何院代
不動明王　年号　七月下旬　何院　何院
神変大菩薩　大先達何院代
祓殿アリ　新客等俸授

横根
浅間大菩薩　服者全新七月下旬
以下准之
中宮
八幡大菩薩　中不孔　祓水加持有之
滝本岩屋　慈救児千夜　作法有之
不動明王
中宮少アンタカトキ
少
愛鷹大明神

富士峯 行所 納策 書様 法下準之

発心門 火概 祕歌有之 新客等傳授

八大金剛童子 三十講何院代

不動明王 年号七月下旬

神変大菩薩 大光達何院代

横根 火札

浅間大菩薩

中宮 火札 祕水如持作法有之

八幡大菩薩

滝本岩屋中札 慈救尼千反作法有之

不動明王

中宮火アレタカトス

愛鷹大明神

伍所大権現 祕密ノ重々口傳脇ヘ五位修行有

系リ堅ナ

浅間大菩薩

泉水 祕密行法有之

飯網大明神

須山口中宮

浅間大菩薩

須山堂

丹生大明神

水呑

浅間大菩薩

子ノ神

三寶大荒神

ハネギ

不動明王 作法有之

[illegible]

[illegible]

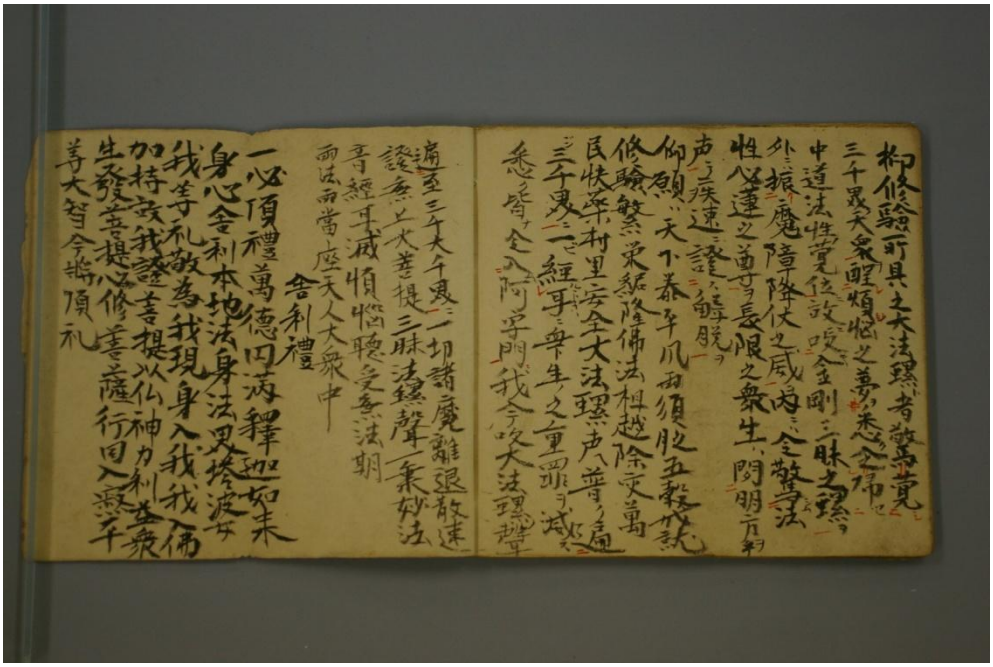
[illegible]

北畑
五鬼前鬼
卯野胎内
子育不動尊
ネノ神
三寶大荒神
ハチキ
不動明王 作法有之
須山
大悲觀世音

今里ノゾキ
不動明王
金沢 作法有之
淺間大菩薩
金里ノ滝
神変大菩薩
桂ノ嶋 作法有之
大悲觀世音
千福
十二所大明神
辯財天女
不動明王
部樹大士
部宮淵

大畑
三所大権現 作法有之
三嶋
三嶋大明神
沼津
山王北一社
根香金前
胎蔵変鷹大明神
金剛杖 床津女之木
金剛冒士峯淺間大菩薩
七社大権現

高根大棟梁
五所大権現
胎蔵変鷹大明神
八大金剛童子
神変大菩薩
五大力菩薩

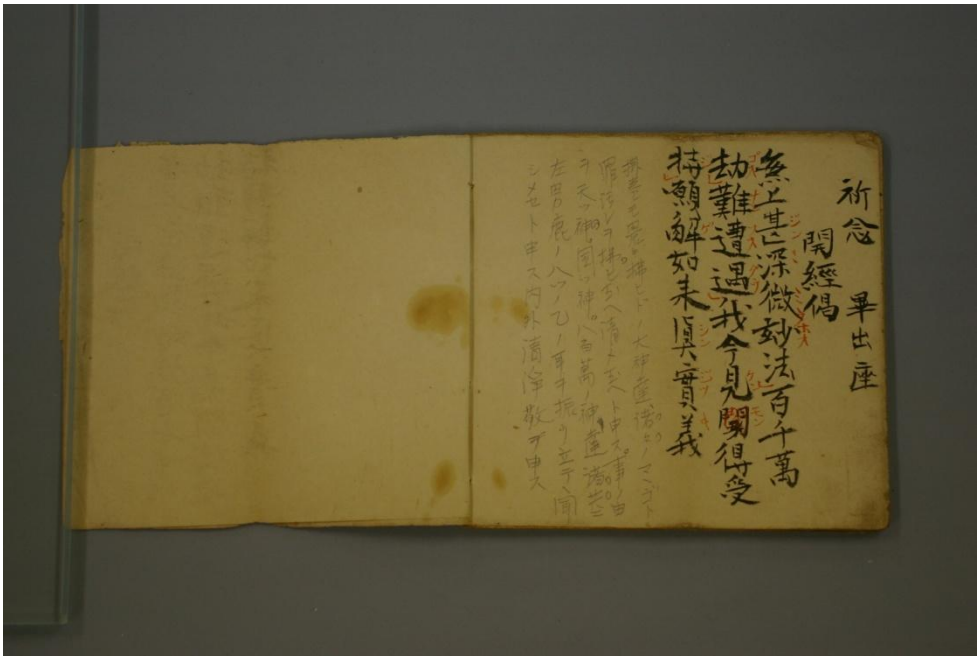


柳修驗所具之大法璟者驚覺
三千界天衆醒煩惱之夢悉令帰
中道法性覺位故吸金剛三昧之璟
外振魔障降伏之威而令驚法
性心蓮之尊長限之衆生閃明方
声疾速證解脱
仰願天下泰平凡而須脱五穀成就
修驗繁栄紹隆佛法相越除灾萬
民快率村里安全大法璟声普遍
三千界一經耳無生之重罪滅
悉皆令入阿字門我今吹大法璟聲

遍至三千大千界一切諸魔離退散速
證無上大菩提三昧法鏡聲一乘妙法
音經耳滅煩惱聽受無法期
而法而當座天人大衆中

舍利禮

一心頂禮萬德円滿釋迦如来
身心舍利本地法身法界塔波女
我等礼敬為我現身入我我入佛
加持故我證菩提以仏神力利益衆
生發菩提心修菩薩行回入愛平
等大智今將頂礼



祈念　畢出座

開經偈

無上甚深微妙法百千萬
劫難遭遇我今見聞得受
持願解如来眞實義

[illegible]

【解題】

こより綴じ二ヶ所の横帳となっており、「富士嶺勤行作法次第」・「採燈大護摩読経之次第」・「富士峯行所納札書様」といった事項によって構成されている。「富士嶺勤行作法次第」は富士峯修行における勤行での読経・真言など法会の次第を、「採燈大護摩読経之次第」は採燈大護摩供における読経の次第を、「富士峯行所納札書様」は富士峯修行の各行場に納める納札の書き方を記す。

この史料は、朱書・硬筆書含めた追筆が縦横に多々見られることから、特に全頁写真にて掲載することとした。空白頁部分も原本の構成のままである。

「富士嶺勤行作法次第」は、①『諸家認記』の「富士峯勤行作法」と、「採燈大護摩読経之次第」は「採燈大護摩読経之次第」と、「富士峯行所納札書様」は「富士嶺行所納札書様」とそれぞれ対応する事項であるが、一部記述に相違がみられる。②「富士峰採燈大護摩次第」と比較しても同様のことが言えるが、ただしこの史料は、どちらかと言えば②「富士峰採燈大護摩次第」より①『諸家認記』に近い内容をもっていると言える。直接同書を書写したとは言えないまでも、それに近い写本を抜粋してまとめられた記録と考えられよう。

史料に年記は記されていないが、頁内に大正四年（一九一五）の千福十二所神社の祭神・宗典などについてのメモ書（【文書・記録編】二六四―二号）が挟み込んであることから、大正時代初期頃のものではないかと思われる。大宝院秋山茂作の活動時期に相当していよう。

おわりに

①『諸家認記』・②「富士峰採燈大護摩次第」・④「富士嶺勤行作法次第」の三点の史料については、概ね同内容の次第を伝えているが、記述の一部相違する部分については、富士峯修行を復元する際に今後も比較検討をしていかなければならないだろう。そこには書写の段階での単純な記述ミスも考えられるし、また時期的な変化を伝えている場合も考えられるからである。

③「〔富士峯修行行程メモ書〕」については、近代以降の富士峯修行の行程を伝える貴重な史料であるが、日程的には七月二十一日の村山での「入山伏護摩」から、八月三日に富士山中から下山する間の日程は流動的に記されており、駿東郡方面への下山後の日程も、適宜訂正が加えられている様子が確認できる。近代における富士峯修行は、新暦が導入されたことで旧暦による実施日程に歪みが生じていたことや、地域社会の求めにも対応することで変化を余議なくされていた様子がうかがえる。

①『諸家認記』をはじめとして、大宝院秋山家資料には富士山修験道の教義や次第を伝える貴重な記録が多く含まれている。今後の一層の研究活用が期待される。

（富士市立博物館学芸員）